

# 翳り感じるラスベガスで思う 過去と未来を結ぶ遊技機を

遊技機委員会委員長 内藤裕人



後ろ髪を引かれる思いで帰国の途に着いた記憶が蘇ります。

今回は後悔のないように事前にショーの予約やオプショナルツアーなど、計画を立てて臨んでいます。が、十年一昔とはよく言ったもので同じ様な景色でも印象は大きく違っています。端的な印象としてはワクワク感を感じないとも言います。街を歩く人やホテルの宿泊客は多く賑わっていると感じる割に、季節やタイミングはあると思いますが、肝心のカジノで遊んでいる人が少ない印象です。

この10年で世界各地にカジノリゾートやローカルカジノが増え分散しているのではないかと想像してしまいました。世の中の進化なりに街並みに大型のLED看板も増加していますし、スロットマシンも美麗な液晶搭載機中心でかつてのシンプルな物は見当たりませ

ん。設備・接客も向上している様に感じます。機械も設備も高コスト化している事は容易に想像出来ます。しかし、稼働率が低い証拠

なのかディーラーはテーブル数より明らかに少なく、カクテルウェイトレスの姿も以前の印象より圧倒的に少ない。

カジノ以外と、ホテルでの日用品や食事代も物価よりもかなり高め目な設定を感じる価格帯です。集客の方法、ひいては売上・利益確保への構造の変化を感じた次第です。

そこで思った事は、私たちの業界も遊技者減少や売上規模縮小、余暇市場の多様化といったマイナスの環境に対し同じような形で対応を図っているが、果たしてそれがニーズと合致し、結果(集客↓業績)へ繋がっているのだろうか。改めて考えさせられました。また今回のラスベガス中心地で感じた印象は実際の売上市場規模や内

訳からでは無く感想です。パチンコ産業の概要については仕事である事から当然実数値と内容を把握している訳ですが、私たちが今後ターゲットにすべき、掘り起こせる可能性が高いと推測される十年一昔でパチンコ離れしている休眠層が現在のホールに来店した際にどういった印象になるのだろうかと考えさせられた次第です。



最後に遊技機委員会ではこの先の活動として、来年2月下旬開催予定の「パチンコ&パチスロフェスタ2014」に向けての準備に入ります。今回感じた事も含めて変化への対応と、昔は良かった、昔の様にといった思い出發想では無く、未来と過去をつなぐ遊技機とは何かを客観的な視野も失わず次回フェスタにて発信できる場にしたいと考えております。また他委員会とも連動し、より活動が伝わる場となれば幸いです。皆様のご参加ご協力の程宜しくお願い致します。

11年ぶりに訪れているラスベガスでこの原稿を書いています。

初めて訪れた当時は振り返れば31歳入社8年目、店長として3年目を迎えた頃でした。実はその旅行が初めての海外。しかも自分の意思で行き先を決めた訳ではなく、どんな所なのか、そもそもカジノでの楽しみ方や観光名所やショーなど予備知識も薄い状態で過ごした数日間でした。ところが、帰国前になるともう少し滞在したいと



光が溢れるラスベガスの夜景を背に内藤委員長